

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
平成21事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成22年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

判断理由

- 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価については、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。
- 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目について、空き店舗を利用した展示会、廃校を利用した創作活動を実施したこと、さらに、サービラーニングなどこれまでの取り組みが評価され、「ナラティブ能力育成プログラム」が文部科学省の「大学教育推進プログラム」に選定されるなど外部資金の確保につなげたことから、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。
- その他の大項目で特筆すべき事項は「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目において、新規の外部資金を積極的に申請、獲得したことや入学生確保対策を実施したことにより自己収入を増加させたことなどがあった。また、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」の項目において、広報室から積極的に大学情報を発信し新聞各紙に多くの記事が掲載されたこと、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目において、不審者対策として警備員の巡回を強化、非常用警報装置を追加設置するなど学生の安心・安全対策を図ったことなどがあった。
- 以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

<委員会からのコメント>

- ・大分県立芸術文化短期大学は、地方独立行政法人化4年目においても、中期目標の達成に向けた年度計画を着実に実行している。特に重点項目に掲げた外部研究資金の獲得に向けた積極的な取組、有識者や著名な芸術家を招聘しての公開レッスンや視聴覚教育設備の整備など教育環境の充実、また、アートキャンプや学長プロジェクトによる公開講座など地域との連携を進め、開かれた大学づくりに努力が払われるなど、順調に取組が進められている。
- ・中期目標期間（H18～H23）も残すところあと2年だが、今後も中期計画の達成と地域に愛される大学づくりに向け、更なる取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、179項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、サービスマーケティングなどこれまでの取り組みが評価され、「ナラティブ能力育成プログラム」が文部科学省の「大学教育推進プログラム」に選定されたこと、アートキャンプや公開講座、ジュニアオーケストラの指導などで自治体や企業等との連携を行うなど、計画以上の成果を上げている。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(I-1-(1)イ(イ)abc)【2】
- 地域社会における発表の機会の創出
 - ・ショッピングモールの空き店舗を利用して展示会を開催した。
 - ・廃校を利用して高校生とともに合宿形式で創作活動（アートキャンプ）を行った。
(I-1-(1)イ(ウ)abcd)
 - 「サービスマーケティング」の発展・強化
 - ・サービスマーケティングを中心とした「ナラティブ能力育成プログラム」が文部科学省の「大学教育推進プログラム」に選定された。
 - ・学科のホームページを充実させ、サービスマーケティングの記事を公表できるようにするなど情報発信を強化した。
(I-1-(1)イb)【2】
 - 教育内容の充実
 - ・造形専攻の科目の新設等とともに募集定員を改定し、教育内容を充実させた。
 - ・音楽専攻の入学定員を増やした。
(I-1-(2)ア(オ)ab)
 - 特別講座の実施
 - ・音楽科において、NHK交響楽団のコンサートマスター及び各パート首席奏者を特別講師として指導を実施した。
 - ・情報コミュニケーション学科において、鶴崎サエモン23、大分七夕祭り、湯布院映画祭、大分子ども劇場キャンプなど地域活動の参加の充実を図った。
(I-1-(3)ウ)【2】
 - 教室、備品、機材の整備の充実

- ・音響機器の整備、ディスプレイの新設など視聴覚教育環境の整備を図った。また、音楽棟小ホールにオペラ授業・公演時に不可欠な照明装置を設置した。

(I-1-(4)イ(ア)c)【2】

○入試方法の改善

- ・音楽科において試験科目を変更、美術科においてプロダクトデザイン分野を新設した。また、志願者、入学者の増えた専攻科について、造形専攻定員を15人から24人、音楽専攻定員を15人から20人に改定した。

(I-1-(4)イ(イ))

○社会人入試・留学生入試の改善

- ・入試時期、日本語科目の得点を見直し、国際文化学科、情報コミュニケーション学科に各1人の外国人留学生を確保できた。

(I-1-(4)ウabcde)【2】

○大学の知名度向上のため芸短フェスタの実施

- ・「佐藤しのぶソプラノリサイタル」をはじめ、各種美術展、演奏会、講演会など各学科の特色を活かした34イベントを全学一丸となって実施し、PRに努め、本学の魅力をアピールできた。

(I-2-(1)アd)【2】

○文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」の申請

- ・情報コミュニケーション学科を中心に実施している「地域社会特講」「サービスラーニング」の実績をベースに、「体験をスキルに変えるナラティブ能力育成」を申請し、選定された。

(I-2-(2)ア(ウ))【2】

○外部研究資金の獲得に向けての取組

- ・科学研究費補助金申請のため研究者を対象に応募に向けての研修を行った。総務省の戦略的情報通信研究開発推進制度に「地域住民の信頼と人間関係を基盤とした地域防災SNSに関する研究開発」が採択された。

(I-3-(1)イ(ア)abc)【2】

○各自治体や企業等との連携の推進

- ・竹田市で公開講座を開催した。アートキャンプを行った下竹田小学校跡地を芸短大のキャンパスとして活用する。また、マスコミやNPO等と協定を締結し、寄附講座の開講や施設の貸出など相互に協力を行うこととした。
- ・大分県文化スポーツ振興財団との協定の一環として、ジュニアオーケストラの指導をNHK交響楽団団員等とともにいった。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	139(11)			128(5)	11(6)
研究	12(2)			10	2(2)
社会貢献	28(6)			26(5)	2(1)
合計	179(19)			164(10)	15(9)
ウエイト考慮 後の合計	198			174	24

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、179項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○サービスマーケティングなどこれまでの取組が評価され、「ナラティブ能力育成プログラム」が文部科学省の「大学教育推進プログラム」に選定されるなど外部資金の確保につながる努力は評価に値する。

○アートキャンプやジュニアオーケストラなど、各自治体、企業等と連携して、地域へ開かれた大学づくりが行われていることは素晴らしい。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

<p>○小項目評価の集計結果では、15項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。</p> <p>○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。</p> <p>○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。</p>
--

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	7			7	
人事の適正化	8			8	
合 計	15			15	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、15項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、11項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、外部研究資金の獲得に向けて積極的に取り組み新規の外部資金を獲得、入学生の確保対策の実施、公開講座等の負担金の徴収などにより自己収入の確保をするなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(Ⅲ-2-(1)a)【2】
- 研究資金獲得の取組
 - ・総務省の戦略的情報通信研究開発推進制度に「地域住民の信頼と人間関係を基盤とした地域防災SNSに関する研究開発」が採択された。
 - ・大分県文化スポーツ振興財団と公演の共催に関する協定書を締結し、共催負担金の支援を得ることができた。
 - ・平成22年度の科学研究費補助金獲得に向け8件の申請を行った。
(Ⅲ-2-(2)a)【2】
- 入学考査料、入学料、授業料等及び公開講座講習料等の安定した自己収入の確保
 - ・積極的な高校訪問等を通じ入学生の確保対策を実施したことにより受験者、入学者ともに増加し、授業料、入学考査料及び入学金の合計は前年度に比べ約800万円増加した。また、公開講座講習料等について必要経費に基づき適正な負担を求めた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	5			5	
外部資金等の 獲得	4 (2)			2	2 (2)
資産の適正管 理・有効活用	2			2	
合 計	11 (2)			9	2 (2)
ウエイト考慮 後の合計	13			9	4

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、11項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○科学研究費補助金に限らず、総務省、文化庁などからの外部研究補助金の獲得や高校訪問による入学生の確保対策などが積極的になされており、自己収入増加につながっていることは評価に値する。

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、広報室から県政記者クラブへの資料提供により、新聞各紙に多くの記事が掲載されるなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(Ⅳ-2e)【2】
- マスコミへの情報提供
 - ・広報室において大学情報をとりまとめ、県政記者クラブに資料提供を行った。その結果、新聞各紙に多くの記事が掲載された。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			4	
情報公開	3(1)			2	1(1)
合計	7(1)			6	1(1)
ウエイト考慮 後の合計	8			6	2

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、防災訓練の共同実施、新型インフルエンザ対策本部の設置、不審者対策を強化するなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(V-2b)【2】
- 危機管理事案の対処の検討
 - ・同じ敷地内にある高校と共同で防災訓練を実施、新型インフルエンザ対策本部を設置し受験機会の確保のための追試験を実施した。
 - ・警備員の巡回の強化、非常用警報装置の追加設置など不審者対策を実施した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	1			1	
安全管理	4 (1)			3	1 (1)
人権啓発推進	4			4	
合 計	9 (1)			8	1 (1)
ウエイト考慮 後の合計	10			8	2

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし